



5月の園だより

令和8年5月1日
目黒区立中町保育園 園長

こいのぼりが気持ちよく泳ぎ、新緑まぶしい草木、子どもたちは笑顔を輝かせながら園庭で楽しく遊んでいます。新年度から1ヶ月が経ち、新しい人や場所に慣れてきたように感じます。

0・1歳児クラスは3階テラスでボールを追いかけて這い這いしたり、園庭では保育士を目指して向かって行ったり安心できる場所が広がっています。そして、私が両手を広げて待っていると「先生のこと覚えてよ」と言うように抱っこを求めてくれるようになりました。2歳児クラスから5歳児クラスは虫が大好きで園庭や散歩先の公園でダンゴムシやミミズ、ヤモリなど生き物との出会いから実体験として五感でたくさんを感じとる毎日です。園庭でクモを見つけた日、3歳児クラスの子は「よく見てみたい」とクモが入った袋の中を覗き込みじっと見つめていました。保育士と一緒にヤモリのエサを探していたこともあり、しばらくすると「さっきのクモ、ヤモリのごはんにしたいな」と声をかけてくれ「食べるかなあ」と持って行きました。保育士と共に生き物を身近に感じながら観察することも楽しい遊びです。また、5歳児クラスでは捕まえて飼育を開始したヤモリが死んでしまい、悲しくなったり命の大事さも少しずつ感じ取ったりしています。

先月は全体保護者会にご出席していただき、ありがとうございました。今月から各クラス懇談会が始まります。園での子どもたちの様子や家庭での子育てについて共有し合い、保護者の皆様と共に子どもたちに寄り添いながら安心して登園していただけるよう園運営を進めていきたいと思っております。

《行事予定》

春の遠足（4、5歳児）
内科健診（3、4、5歳児）
身体計測
避難訓練

《クラス懇談会》

5歳児	16:30～18:00
2歳児	16:30～17:30
3歳児	16:30～17:30



おひさまみんなのこいのぼり

おひさま組(5歳児)

5グループにカガレ古シーツを使い、絞り染めをして『おひさまこいのぼり』を制作しました。最初にやる事は、魚の鱗の模様を作るためにビー玉やピンポン玉などを輪ゴムで縛る作業です。しっかりと縛らないと綺麗な模様が出ないので、結び目も緩くないか確認しながら進めていきます。「指が痛い」「難しい」と途中で疲れてしまった友達に気づくと「休んでいる間、私たちがやっておくね」と同じグループで声を掛け合う姿もありました。次に染粉を使って赤、青、緑色に染めます。お湯を使用するので、割り箸でかき混ぜる時は慎重になりながら、じわじわと染まっていく様子を真剣に見つめています。自分のグループだけでなく、他のこいのぼりも気になるようで「いい色になったね」とやりとりをしていました。仕上げは数日乾かした鱗の輪ゴムを外す作業です。輪ゴムがきつくて悪戦苦闘しましたが、はっきりと白い模様が見えた時の子どもたちはどの子も満足そうな表情をしていました。年長児になり『クラスのみんなで作る喜びを感じる』第一歩を踏み出しました。そして『おひさまこいのぼり』を廊下や園庭に飾ると小さいクラスの友達からも「大きいこいのぼりだ」「やったあ」と声が上がり、おひさま組の子どもたちも空を見上げて楽しんでいます。

はじめましての、ひと、ばしょ・もの だいすきが、ふえますように



もも組（0歳児）

新しい環境で、保育士に抱かれ顔を合わせて一緒に遊びながら少しずつ園の生活にも慣れてきました。「いない、いない」と子どもたちの顔に布を掛け「ばあ」と布を引っ張り、顔を出したり隠したりして遊んできました。遊んでいくうちに、保育士が「いない、いない」と声をかけると、自分から布で顔を隠したり、布を引っ張って保育士と顔を合わせて満面の笑みを見せてくれたりしています。これからも子どもたちとの触れ合いを通じて、たくさんの笑いや楽しさを共有していきたいと思います。



たんぼぼ組（1歳児）

子どもたちは保育室を探索しながら好きな玩具や遊びを見つけて楽しんでいます。チェーンリングを手に取り、皿や容器に入れて落とす遊びは楽しくて、保育士の歌や友達の遊びに興味をもち、近づいて同じようにやってみようとしています。入れた後は容器の中を覗き込み、チェーンリングが入っているか確かめ、容器を揺らしたり傾けてこぼしたりしながらそれぞれの遊び方で楽しんでいます。たくさん入ると容器を持って保育士に見せてくれるので「すごいね」と拍手すると嬉しそうにし、再び入れ始めて遊びが続きます。保育士と一緒に繰り返し好きな遊びを楽しめるようにしていきます。



ちゅうりっぷ組（2歳児）

つい立てで囲んだスペースにマルチパーツで椅子を作って座り、フープをハンドルに見立て乗り物ごっこを楽しんでいます。友達と一緒に乗り込み、運転手役の子どもがハンドルを握ると「保育園行ってくる」と人形を抱っこして、保育園へ預けにいきます。「元気ですか」「あとで迎えにいきます」などと自分たちが経験しているやりとりが始まります。子どものイメージで自由に再現しやり取りを楽しめるように、様々な玩具や空間を工夫していきたいと思います。保育士もその楽しさに共感して毎日を過ごしていきます。

ほし組（3歳児）

生き物の飼育生活が始まりました。最初は「ここにいるよ」と言っても石ころとダンゴムシの違いがなかなか見分けられず「いないじゃん」と不満そうにする子、岩の裏側に大量のダンゴムシがいて驚き嬉しそうになる子、カタツムリを持ち見せに行こうとしたら落として自分の足で踏んでしまい、衝撃と何とも言えない悲しさを感じた子、想定外のヤモリを発見し驚きで固まる子、生き物を通して毎日ドラマが生まれています。きっとこの一年で気づく嬉しさや楽しさ、不安や悔しさなど、今までよりも複雑になる感情に保育士も寄り添い過ぎていきたいと思います。



つき組（4歳児）

ある日、ほし組とおひさま組がヤモリを捕まえて見せてくれました。生き物が大好きな子どもたちは「つき組にもヤモリ欲しい」と探し始めます。タイヤとマットの下に隠れていたことを教えてもらい、シャベルを持って探し始めると「ヤモリの足跡がある」とタイヤの溝を指して知らせてくれました。タイヤ痕が足跡に見えたようで、他の子どもたちも覗き「ほんとだ」「ヤモリがいたんだ」と大喜びです。「どこかにまだヤモリが隠れているかも」とたくさんのタイヤの溝を一つひとつ確認して探していました。子どもたちの気づきや発見を探求して、遊びの面白さへと広がるよう楽しんでいきます。

